第 46 号
昭和62年3月

会　報

発　行　北海道高等学校
教育研究会事務局
〒064 札幌市中央区旭ヶ丘6丁目5番18号
札幌旭丘高等学校内
電　話　561－1221番

ごあいさつ

北海道高等学校教育研究会
会長　小柳六郎

今年度もいよいよ大詰めを迎えました。当研究会の各種事業も予期以上の成果をあげて終了しましたが，これも偏に会員各位はじめ関係諸機関・団体等の御理解によるものでして，日ごろの積極的な御協力に対し衷心より厚く御礼を申し上げます。

とりわけ，今第24回研究大会の開催に当たりましては，例年どおり四千名を超す参加者を得，全体集会，教科部会ともども，終始効果的に運営することができました。主催するもののひとりとして喜びの限りです。

この度は，中央講師として論壇の鬼才，東京工業大学教授江藤淳先生をお迎えし，「ことばとこころ」について御講演をいただきました。古今和歌集の仮名序を引用され，心の交流の手立てとしての「ことば」についてアピールされましたが，国語審議会委員としての御活躍が期待されるゆえんです。

また，道内講師としては，虻田町長岡村正吉先生から「地方自治と教育」についてお話を伺いました。三原山噴火のこともあって，タイムリーな話題がぎっしり詰まっていた御講演でしたが，先生の御友人星野富広氏の詩の一部「よろこびが集まったよりも　悲しみが集まった方が　しあわせに近いような気がする」の御朗読にいたっては，元道教育長の面目躍如たるものがありました。いずれにしましても，満場の参加者に教示と感動とを与えられたお二人の先生に，改めて御礼を申し上げる次第です。

全体集会の余勢は，各教科部会において更に大輪の花を咲かせるところとなり，各部会ともこれまで以上の盛会でした。特に新設の養護部会にあっては，その体裁も内容も既設の他部会に優るとも劣らないものでして，見事な運営ぶりは高く評価されます。それにしても，二日間にわたる当研究会のメーン行事成否の鍵を握る講師・助言者・発表者の先生方，司会・記録・運営等を担当された方々の御労苦に，心から敬意と謝意を表させていただきます。

ところで，教課審の動きも活発化し，高校分科審議会の模様などが報道されています。臨教審の第3次答申はじめその行方についても，教職に在るものとして当然凝視せざるを得ないところです。また，次年度へと持ち越さざるを得なかった足許の問題も各校なりに多々あるものと思われます。先見性と即時性とが教育プロの資質とすれば，その期待に応えて，いまこそ腰を据えて意見を述べ，対策を講じなければならないわけです。丁卯ウサギの年度が開幕されようとしています。卯は方角でいえば東，季節では春に当たります。物事のスタートの位置にありますが，当会のこれまでの歩みをホップ・ステップとし，25回の大きな節目を迎える年度では，始めから「脱兎」の如きジャンプを期待したいものです。

〔日程第一日・全体集会〕

〈全体講演〉　　（午前の部）

〔講演要旨〕

「ことばとこころ」

東京工業大学教授　江藤　　淳氏

演題である「ことばとこころ」は、教育の根本に深く関わる事柄である。私は昭和30年から文芸批評に携ってきたが、この開祖は紀貫之である。彼は『古今和歌集仮名序』の冒頭において、「やまと歌は人の心を種としてよろづの言の葉とぞなれりける」と述べ、心と言葉の概念を最初に提示した。日本の文化・文学を考えるためには、この心と言葉との照応関係を理解することが大切である。

本居宣長も『古事記伝』の中で説いていることであるが、『古事記』は上代人の心を上代人の言葉がそのまま表わし伝えたものであり、心と言葉が「幸福な照応関係」をなしている書物である。

古今集を下ること800年。1763年５月、宣長が33才の時の賀茂真淵との出会い、「松坂の一夜」は感動的なものであった。真淵は伊勢参宮の帰途、既に古典文学研究に傾倒していた開業医宣長と初対面し、国学について語り合った。その時真淵は言った。「私はようやく『万葉考』を書きあげたが、この仕事を通し古事記研究の必要性を痛感している。しかし、日暮れて途遠しである。若い君にそれを託したい」と。こうして師弟の縁を結んだ二人は、真淵が亡ずるまでの６年間、書簡の往復のみによる、激しい論争を含んだ指導が行われた。『古事記伝』はこうして成ったのである。

真淵・宣長が直に対面したのは「松坂の一夜」のただ一度だけであったのであるから、言わば、通信教育が功を奏したことになるのであるが、実はこの手紙のやりとりは、文字を読みながらも互いにその声を聴いていたのである。声を聴き合うことによって、完璧に通じ合うことができたのである。学校教育の意味もこの声を聞き合うというところにあるのであって、声ほど偽りのないものはない。声に表れた言葉には人間の心そのものが示されているといえよう。声を聴き合うということこそが教育の原点ではないか。

日本の文化は、元来文字ではなく声によって、口伝えに伝えられてきた。声を媒介にして学問が伝習されてきたのであり、我々の言語体験の核は文字ではなく声である。

ところが、大化の改新は唐文明の導入という積極的な中国化政策をとったので、天智天皇も漢文を奨励した。その結果、声が失われただけではなく、声によって伝えられていた心や事までも見失われていった。文化の破壊が生じたのである。

天武天皇はこの危機に気づき、古事記の編纂を命じられた。それは、漢文で記されている文化(歴史)を、たとえば祝詞・宣命・歌などとして残されている真の言葉を拠り所にして、声の段階にまで逆のぼり、日本の古代語で記録させるというものであった。

こうして成った古事記の日本語を見ると、それは1000年後の江戸時代の言葉や心と何ら変わっていないことがわかる。つまり、日本人の言葉や心は強靱な持続力をもっているといえるのである。

過去、我々は文字と声とを止揚しながら保持してきたが、第二次大戦後、国語の大変革が行われた。ローマ字の採用・現代仮名遣い化・漢字制限など。この陰には、文字記号の改変により人為的に文化の断絶を図ろうとする占領軍の意図があった。現代に至るまで秘匿されていることであるが、実は徹底した検閲も占領軍当局により行われた。それは川路柳虹の「帰れ霊」にみられるようなひどさであった。人の心を伝える詩(うた)を検閲することは、とりもなおさず、人の心をずたずたに削るものである。

しかし、日本の文化つまり言葉は強靱な持続力を持っている。それをかき消してしまおうとする力も占領軍に始まり、現代の学校教育においてもみられる。私は国語審議会の委員として、日本の言葉が自由に豊かに息づくように微力を尽したい。

〈全体講演〉　　（午後の部）

〔講演要旨〕

「地方自治と教育」

北海道虻田町長　岡　村　正　吉　氏

地方自治とは何か、それは「国や道に頼らず自分の町のことは自分の町でやる。」ということである。北海道・札幌市といった巨大な地方自治体はともすれば１つの権力機構になりかねない。今日は、地方自治本来の精神を発揮することができる町や村など小規模な地方自治についてお話したい。

私が虻田の町民に推され町長となった昭和49年頃は、伊達火力発電問題で町が２分し、それ以前の10年間に５回も町長が変わる程であり、町は政争に明け暮れ、正に「人間砂漠」の様相を呈していた。私は火力発電反対の立場である革新勢力に推されたのであるが、国や道からの補助金によって町を活性化しようという賛成派の推す候補者との票差はわずかに200票であった。このような経緯の中で、町長という役職は、権力の方を向いて頭を下げる「乞食」ともなるし、自分の良心だけを頼りに様々な圧力に屈しない「王様」にもなれると考えた。

私の考えている町づくりは、この町に住んでいて良かったと町民が思える、物質的な豊かさではなく精神的に豊かな町をつくることである。自分以外の弱い者のことを皆が考えるというユートピアが虻田町でも有珠山大噴火の折に実現した。町民は「嵐の中を漂う船乗り」であり、皆が団結して復興に力を尽くした。灰まみれの中でのユートピアであった。

しかし皆の力のおかげで町が復興すると30軒程の旅館の間で醜悪な競争が起り、そのユートピアも束の間のものとなった。しかしながら以下の政策を実行することでその実現を目指している。

※町長室の撤廃　―町長の垣根を超えて―

私が町長になって最初に手がけた仕事は町長室を撤廃し、役場のクロークを撤去し、町民と役場の垣根を取り払い、ガラス張りの政治を行うことであった。権力に目を向けるのではなく町民に目を向ける姿勢を貫く為にである。自分は冠婚葬祭町長であると自負しているが、町の発展に尽してくれた功績に敬意を表し、町民を代表して自ら弔辞を書き心から弔意を表している。

※　行政区分を超えた地方自治

虻田町は全国有数の温泉地を抱えており、女性の働く場が多く、その為母子家庭も多い。母親が朝早くから夜遅くまで勤務するため、保育所の整備は必須で、本町では100%保育である。子供の健全な成長の為には、従来管轄が異なっていた保育行政と初等教育の一貫性が必要だと考え、厚生省管轄の保育行政を教育委員会管轄とした。

又、昨年12月末には西胆振の5町村の農協が大同団結して新しく洞爺湖農協として発足した。さらに噴火湾を囲む、渡島、胆振両支庁で話し合いをもった。農業や漁業を振興するために従来の枠組みを超えて結束するこの試みは、今後道内のモデルケースになるであろう。

※　終りに

東京で受験勉強ではない理想の教育を目指し私塾を経営していた芳賀氏から「東京は教育の場ではない。」自然環境に恵まれた洞爺湖畔で私塾〝青桐の家〟を開きたい。」との申し入れがあり、実現の運びとなった。

「強いものが集まったよりも弱いものが集まった方が、幸せに近いような気がする」

（詩画集「風の旅」　星野富弘著）

この詩のようなユートピアを築きつつあるわが町虻田に皆様、どうぞお越し下さい。

〔日程第二日・部会別集会〕

国　語　部　会

〔研究発表〕

①「自己学習力を育てる国語教育」
――低学力、低意欲集団に対する国語表現からのアプローチ――

興　部　塩谷　哲士

学習意欲の低い生徒、作文を書かせても生徒の心が見えない。そこで、国語の一般常識をカルタ方式で学習させることを試みた。定着率が非常に高く、取りこぼしがなかった。

また、生徒の生きた言葉を導き出そうと、創作劇を授業の中に取り入れてみた。集団での取り組みの中で自分自身を生きた言葉で表現し、人間関係での成長も見られた。

また、三学年就職コース選択授業ということもあり、新聞の読める生徒の育成を図った。新聞に必要なものを学ばせた後、新聞の創作をさせた。これは、生徒が自分の身の回りを見直す契機ともなった。そして、作文を書くことが楽しいと感じる様にもなったのである。

これからも、生徒が飛びつく教材を模索して行きたい。

▶質問　室清水丘・伊藤――生徒への定着率をどのように測っているのか？

▷答――テストをした結果、80点位の平均が出た。カルタをやらない時は40点位だったのが、ここまで高められた。別の学年でも実施しているので比較してみたい。

▶質問　北広島・松田――評価をどのようにしているのか？脚本段階の指導は？また作品の時間、ジャル等は？

▷答――台本、演技また準備段階での活動等を総合的に評価し、中間考査扱いにしている。脚本の科目は、その場の心理に見合った話し方が出来る程度の指導をしている。時間は15分程度で、学園物が多い。

②「『古典』における学習指導法の一考察」
――一斉授業における個別化を考えて――

上　磯　中川　洋三

昨今の生徒の実態を見ると、国語力の低下と個人差の拡大、古典学習に対する興味・関心・意欲の低下、日本の文化と伝統に対する認識の低下があげられる。そこで一斉授業における個別指導を試みた。この際、毎時の導入部分を大切にし、生徒が同じスタートラインに立っていることの安心感・満足感をプリント学習によって持たせ、授業のねらいを明確にした。そして、生徒に作業させている間に机間巡視し、個別指導により生徒の興味・関心や意欲の喚起を図った。こうした指導を通して、課題を一つ一つ解決させ、定着・応用させることによって意欲的に取り組む姿勢を持たせた。

▶質問　新得・田所――口語訳はどのようにしているのか？

▷答――板書して整理させている。時間がかかっても仕方ないのではないだろうか？

▶質問　戸井・畠山――生徒の反応・考え方に対する指導はどうしているのか？また、生徒の感想は個人的過ぎないか？人と人とのつながりの大切さが必要だと思うが？。

▷答――提出させ、内容の良いものは発表し、朱筆を加えて返却している。生徒の感想については指摘通りだと思う。意見を参考にして今後も進めて行きたい。

③「理解領域の学習を、意欲的・主体的にするための試み」
――国語Ⅰ・Ⅱ「理解編」の実践例と考え方――
中標津　**細田　勲**

読解を意欲的にするためには、授業以前や単元初発の興味・関心づけが必要だと考える。そこで生徒の意欲を単元内容に照準化させたり、文学作品の予測ストリーを書かせるなど、学習への意欲・関心づけを行っている。

また、自作テスト問題を作らせ生徒間でやりとりさせたり、授業実習させるなど、自力で問題を掘り起し発見させることによって、生徒が主体的に学習し、問題解決型から問題発見型へと向かう指導を試みた。生徒は本来意欲に富む者であり、生徒の主体的な読解活動を重視した指導が望まれるのである。

▶質問　池田・倉部――基礎訓練的読解から自力読解へと高めるための日常指導は？

▷答――通常の授業から抜け出るために実践したのであるが、それが自力読解につながると考えている。

〔助言〕

柏倉――多様化する生徒を惹きつけ、どのように自己学習力を高めて行くかという、生徒の意欲の喚換を図る三発表だった。生徒の心を把握し、一斉授業の中に個別学習を位置付け、生徒の意欲を高めて行くには、「生徒起し」という生徒の心を耕す活動等、指導の工夫が必要なのではないだろうか。

安尻――三発表とも、学校の実態に即した国語教育はどうあるべきかを目指す、継続的実践の発表であった。三年間を通して、国語力などう育てるか、一人ひとりの人間性の育成を通して、国語をどう教えて行くかが大切なのではないか。教師の目は心を表すものだ。生徒の意欲を高め、積極的に学習に参加させるためには、「可能性を認めてやる目」「励ましの目」「自らを顧みる目」を持たなければならない。

社　会　部　会

〈現代社会分科会〉

〔研究発表〕

①「『嘉代子桜』を通して平和の尊さを考える」
旭川凌雲　**小野寺　徹**

「現代社会」は、生徒に行動する力、生きる力を与えるものであり新しい教材開発が必要である。「現代社会」の基本的重要課題である戦争・平和について、感性を揺さぶり、我が事、我が痛みとしてとらえさせるために生徒の自作テープ「嘉代子桜」を通して、平和の尊さについて学習の核心に迫る事にした。

私が「嘉代子桜」に出会い感動して、授業でＳＴＶの全道高校放送コンクールのドラマを生徒に聞かせた。生徒の希望者で効果音、ＯＨＰでさし絵を入れて、紙芝居風の約20分間の自作テープを作成し授業の展開に取り入れた。単元に入る前に、生徒が主体的に学ぶ姿勢を自然に確立させるための環境作りが必要と考え、教室の掲示板に写真・新聞を貼り、生徒に問題意識を持たせた。授業のまとめでは、授業日誌を作成させて、感想を書かせて発表させたところ、生徒の反応は想像以上に食いついてくるものがあった。今後とも、このように後の生徒に続くものを築きあげたい。

②「現代社会における郷土教材の活用について」
札幌稲西　**中村　和之**

「世界の諸地域の文化と文化交流」の部分は扱いづらい単元のひとつであった。そこで、自分が郷土史に興味を持ち、ささやかな調査をしていた事もあり、北海道を中心とした文化交流のあり方を取り入れてみた。単元の学習後、生徒の持つ基礎的知識から出発し、北海道を深く理解して自分達の状況を考えさせる事を目指して、「北海道における文化交流」という題目で主題学習を２時間配当して実施した。最初の１時間で古代から江戸までを扱って、北海道の歴史的位置を理解させた。２時間目で開拓期から現代までを扱って、北海道の現代と今後の文化交流のあり方を理解させて、自分の周囲の文化をどう育てていかなければならないかという事を考えさせた。この試みは、生徒の興味・関心を引き起こすという点では、得るところがあった。今後とも、生徒が自分の力で考える態度の育成のために努力していきたい。

〔講演要旨〕

「現代社会と人間の生き方について」
文部省教科調査官　**安沢順一郎氏**

今の子どもたちに〝Boys, be ambitious!〟と呼びかけても、大志を語れるだろうか。『青少年白書』でも、青少年問題審議会の報告でも、子ども意識の変化を指摘している。今の子どもは、個人生活重視で現状肯定、目立ちたがりで軽さを求める生き方、情緒的・感覚的な友人志向という特徴をもつ。すなわち、経済的に豊かな社会の中で心が貧しくなっているのが現状であろう。

これまで歴史上なかった豊かな社会での道徳、すなわち人間らしい生き方を子どもたちに問いかけることが課題なのである。そして家庭や地域社会の教育機能が低下している中、心に響く生き方の指導が求められている。

ひとつの有効な方法として、形あるものを通じて思想の深みを教えるというものがある。例えば、「アテナイの学堂」の絵からプラトンの理想主義とアリストテレスの現実主義、「最後の晩餐」の絵から信仰

と裏切り、マザー・テレサの写真集から人間愛について指導することができる。これらの教材を鏡にして、生徒は自分自身の生き方を写し出して考える。さらに、高いものを目ざして自分を超えていく営みに導くことによって、生徒の生きていく力になっていくのである。

生徒が自分自身の生き方・あり方を写すことのできる教材を用意され、子どもたちが現在ある自分を超えていくという営みを教育の中で大事にしていただきたい。

〈地 理 分 科 会〉

〔研究発表〕

①「基礎学力育成のためのひとつの試み」
＝「架空旅行」を通して地理的なものの見方・考え方を育てる

浦　幌　吉田　泰規

「架空旅行」は、ガイダンス、調査（2時間）、発表の計4時間で構成される。生徒は1～3人で1グループをつくり、日本国内の任意の場所を旅行先とし、そこまでの経過、現地の様子などを時刻表にもとづき机上で旅行する。熱心な活動が行われ、実際に旅行したような感想や、旅行先の生態系観察のレポートも見られ、地理的な考え方を育てる手助けになっている。

②「現代社会に生きる地理を目指して」
＝ＶＴＲの効果的利用と教科通信の取り組み

札幌丘珠　中田　貢

ＶＴＲは、題材を民放の番組を含め広い範囲から選び、独自の編集を加えている。講義式の授業の中で自然に溶け込むよう配慮し、世界の動向を把握できるような工夫をしている。教科通信は、新聞等の内容をダイジェストし、内容も地理に限定せず様々な題材を選択している。生徒の教科通信に対する関心は高い。

〔質疑応答〕

「架空旅行」は、地方の高校だけではなく進学校の生徒にも地理的思考性、地域に対する興味を持たせることになり、また年に数回実施した方がより効果的との指摘があった。

また、同様の実践の報告や海外資料の入手方法の紹介がなされた。視聴覚教育については、ＶＴＲの他コンピューター・グラフィックの導入などの展望がなされ、白地図、略地図の指導、地誌的分野に関する入試問題についての対応が話し合われた。結論としては地理が楽しい教科であるという動機づけが必要であり、地図の日常化、活用化といった地図がベースになった地理教育が大切であるということであった。

〔講演要旨〕

「アイルランドの自然と歴史」

エッセイスト　堀　淳一氏

B.C.5世紀アイルランドに渡ったケルト人は、聖パトリックらにより5世紀キリスト教化され、修道院を中心としてキリスト教が広まった。12～17世紀にかけて、イギリスの植民地政策が進められ、イギリス人の地主、アイルランド人の小作人という関係が生まれ、現在の北アイルランド紛争まで続く種々な差別の原因となった。またアイルランドは、地形的に興味深く、最終氷期に島の⅔が氷河におおわれたため各地で氷食地形が見られる。

スライドに示されるように、キルベガンでエスカー（融氷河堆積物）、西海岸のウエストポートではドラムリン（氷堆丘）が見られる。西海岸の港町は、古くからフランス、スペインとの交流があり、東部とは異なった明るい色調の街並みが印象的である。以上のように、アイルランドの風土は歴史的にも、地形的にも大陸と異なり大変興味深い。

〈倫理社会分科会〉

倫理部会では、まず、北海道教育大学教授鬼丸吉弘氏による「ギリシアの神々と思想」と題する講演を拝聴した。参加者は、10数名という淋しい部会であったが、本講演は、私達に新しい知見を与えてくれるものであり、人数の割には非常に盛況であった。

ギリシア神話の中のヘーラーについてが中心主題であった。一般には、ヘーラーは最高神であるゼウスの后として伝承され、ゼウスの浮気に対して常に嫉妬を燃やしている地味な神とされているが、考古学的事実や言語的問題を探っていくと、どうも違うらしいという問題提起から講演は始まった。真実は、男神中心であるアーリア人がギリシアに侵入した際、女神中心である先住民族を抱き込む為に、ゼウスとヘーラーを一方的に夫婦にしたらしいということである。もともとヘーラーは、平野を支配する神、航海の神、貨幣の神という、独立神であったわけである。

ギリシア神話に描かれている神々が、他の神話のような完全無欠の存在として描かれていないのは、伝承の過程で尾ヒレがついて、人間的な生き生きとした内容になったようだということが、最後につけ加えられた。

午後からは、研究発表会が行われ、2本の研究実践レポートが発表された。1本は倫理授業の中での「テーマ学習」の可能性を内容としたものであり、もう1本は、1時間の授業時間の中に生徒からのレポート発表を盛り込むといったことを内容としたものであった。

前者は、紋別北高の香川光広先生の実践である。当校は、割と高レベルの進学校であるという性格上、今までは、思想暗記の授業を展開してきたわけだが、この授業展開に疑問をもったということが、本実践を展開する動機付けになったということから始ま

り、実際に授業を受けた生徒達の生き生きとした感想に至るまで発表された。

後者は、追分高校の山路秀丘先生の実践であったが、こちらは、反対にいわゆる低レベル校であり、授業に集中できない子供達をいかに集中させるかという問題意識が、出発点になったということが発表された。生徒の集中持続時間を15分ぐらいと考え、授業の始めと途中にCM的なものとしてレポート発表を組み込んでみたということが主内容であった。

その後、2つのレポートに対する質疑・意見交換が行われた。テーマ学習実践に対しては、方法としては素晴らしいが、ひとつのテーマに登場させる思想をもっとしぼり込んだ方がいいという指摘がなされ、レポート学習実践については、生徒中心の発想はよいが、レポートの内容を授業に利用する方法が模索されるべきではないかという声が聞かれた。

最後に助言者である玉置豊先生より、生徒の質の変化に対応して、視聴覚教材を利用した実践を積み重ね、より一層内容の精選をはかろうという助言をいただき、幕を閉じた。

〈世界史分科会〉

〔講演要旨〕

「ビザンツ帝国か、中世ギリシア帝国か」

北海道工業大学講師　**手嶋　兼輔氏**

歴史上、ギリシアといえば、古典ギリシアを第1に思い浮かべる。それ以後は19世紀まで他国の支配に甘んじていた、という考え方が一般である。しかし、前後2回、7年間にわたるギリシア滞在の中で、ギリシア人が「ビザンツ帝国は実は、ギリシア帝国なのだ。」という強い意識を持っていることを知った。この点からビザンツ帝国について研究をすすめてみると、なる程、ギリシア帝国と呼んでもさしつかえない実体を備えていることが分かる。何故、ビザンツ帝国でなければならないのか。この命名は、19世紀末、西ヨーロッパの歴史家によるものであるが、そこには、西ヨーロッパ中心の歴史観があるようだ。ビザンツ時代は、東方の軽んずべき存在であり、ギリシアやローマという名前を与えることを欲しなかったためではないだろうか。

この例のように、今後、世界史における西ヨーロッパ中心主義を改めるとともに、世界史の構成を民族の側から再度とらえ返すことが必要なのではないだろうか。

〔研究発表〕

①「作業学習を通しての東西交渉史」

北広島西　**西　　寛**

世界史への興味関心を引き出し、学習への意欲をかきたてるために、主題学習「東西交渉史」（シルクロード）を取り入れて2年になる。これは、白地図に都市、山脈等を記入する初歩的な作業から出発し、事前に配付した資料を参考として、生徒なりに絵や説明文などを加えた東西文化交流図を完成させていくものである。「ガラスの道」や「リュートの道」など、生徒なりのテーマを選択し、工夫をこらした模造紙¼大の作品が生まれた。配当時間8時間。NHK版のスライド、喜多郎の音楽も使用して盛り上げた。生徒の感想文からも、かなりの成果をうかがうことができるが、教師側の強い指導と適切な指示が、成功につながるものと考える。

②「世界史の授業展開への一考察＝プリント学習を実践して考えること＝」

深川西　**伊藤　静也**

「高校生の世界史離れ」が進むなかで、指導法の工夫として、プリント学習を実践し5年になる。このプリントは手書きを原則とし、教科書に順じたもので、半分を（　）付の歴史ノート、もう半分を重要語句の詳細な説明にあてている。（　）や棒線等によって覚えなければならない事項の重要度を指示し、ノートとの組み合わせで能力に応じた学習ができるよう配慮している。又、毎時間の小テストや、授業改善のための自己評価、ノートやプリントの定期的な点検等を繰り返しながら、授業に迫力を持たせるよう努めている。このプリントは、年間140枚にも及び大変な作業であるが、真剣に取り組む教師の気迫が、生徒に教師との競争を意識させ、共感を生み、大きな効果を上げることができる。

〈政治・経済分科会〉

〔講演要旨〕

「ヤルタ体制と今日の世界」

北海道大学スラブ研究センター教授

伊東　孝之氏

東ドイツの成立から42年が過ぎ、ドイツの分裂に象徴されるヤルタ体制の歴史も大変長きに及んできた。

このヤルタ体制の基本構造は、米ソ両超大国の二極構造にもとづく平和維持であり、局地紛争はあっても両大国間の戦争がなかったという意味においてヤルタ体制は成功であった。

ヤルタ体制の起源は、ヤルタ会談以前の米ソ英三大国の戦後世界の平和をめざした協力体制（1943年のテヘラン会談）で決められていた。

戦後の安全保障体制としての国際連合の構想は、ルーズベルトによる「四大国が世界平和に責任を持ち、他の諸国は武装解除すべきだ」というものであり、これが安全保障理事会の基本構造となった。

ドイツが分裂されなかった場合には、米ソ二極構造は大きく変化したはずであり、従ってドイツは戦後国際政治の象徴である。

極東問題についても、ルーズベルトの「力の平和」とスターリンの「勢力均衡政策」の一致による結果といえる。

以上、ヤルタ体制の歴史を振り返ってみたが、今後も世界紛争をくい止める手段としてはしばらく有効と思われる。

しかし、ヤルタ会談の時点で三巨頭は50年間の平

和維持を想定しており、そういう意味において今後ソ連が大国としての役割に耐えられなくなったときまたは東西ドイツの統合並びにドイツが単独に安全保障体制を形成した場合にヤルタ体制は崩壊するものと考えられる。

〔研究発表〕

①「『政治・経済』における指導・学習課程の総合的研究」　森　菅原　晃

生徒の学業生活実態調査と学習適応検査の結果にもとづいて生徒の実態を適確に捕え、その実態を充分に考慮した中で指導計画の作成にあたり、教材については内容の精選をはかった上で自作のプリントによって生徒の興味・関心を換起させた授業展開を試みているとの発表であった。

②「政治分野学習への動機づけの一試み」
網走向陽　沢田　展人

生徒の社会知識の現状と、生徒が社会科の授業にどのようなことを望んでいるかについてアンケート調査を実施し、その結果をふまえて生徒の学習意欲を掘り越こした指導展開例が発表された。その中で、政治分野における身近な教材を使っての導入や学習事項の定着をめざして単元ごとに配布する「学習の指針」、また自己採点による小テストの実施等、指導計画の作成から指導方法・評価までの実践が紹介された。

〈日本史分科会〉

〔講演要旨〕

「『中世の朝廷と幕府』～後醍醐天皇をめぐって～」
北海道大学助教授　河内　祥輔氏

中世の朝廷と幕府の関係や天皇のあり方等の問題は戦前以来の伝統的見方が根強く、議論の硬直化が見られる。政治史全体をより客観的かつ柔軟に組み立て直す試みが必要。

「天皇政治」なる理念は果して存在したのか？妥当なのか？「神皇正統記」の①天皇親政論②後醍醐天皇論③皇位継承論の検証と諸問題を提起。①「天皇政治」なる理念は後人の解釈であって、後醍醐の自覚する理念であったとする証拠は存在しない。②後醍醐は傍流であり、嫡流の後見役として一代限りである。邦良死後も遺子康二が存在し正当の地位を得たわけでなく、この点で嘘がある。③その状況下で、正当の原理を「譲」におき後醍醐の地位は父後宇多の意志によると主張し、当時としては珍らしい天皇親政を開始。

倒幕運動はこの政治理念の実現といえるのか？朝廷の大勢は傍流後の献であり、その大勢を幕府が支えているが故に、自己の皇流をつくるために、朝廷・幕府連合軍への「御謀叛（倒幕）」が必然化した。

なぜ倒幕が成功したのか？皇統の分裂に対する幕府の無能力、正当の地位の不安定化からくる両統の不満、貴族達の危機感、幕府首脳部の離反等が、一転して後醍醐を過渡的政権として浮上させたのではないか。それは無原則的癒着、理念なき政権であるがゆえに、建武政権の短期崩壊は必然であった。

〔研究発表〕

「『地域社会の歴史と文化の学習』
～郷土研の活動を授業に取り入れた試み～」
松前　米田　裕

今回の主題学習が日本史の授業において、より効果的で定着性のあるものにするためには、教科・科目の範疇を越え、学校の教育活動全体の中から教材を掘りおこしてこそ期待できるのではないか。

昭和57年度から取り組まれた必修クラブや郷土研究部による〝史跡巡検〟や〝原寸大の拓本づくり〟の活動をスライドで紹介。その成果は「松前碑文拓本集」（3巻）と「たていし野史」（通巻5号）に収録。また昭和58年度から継続している現代社会におけるティームティーチングによる主題学習の実践も紹介された。

以上の豊富な活動と資料と実践を生かしてテキスト「松前の歴史と文化」を作成し、三時間配当として3年生の必修日本史で授業を展開。1時間ごとの小テーマは「松前の歴史の推移」「えぞキリシタン」「庚申信仰」。

2割の生徒が活動に参加している身近かな教材の導入と視聴覚機器の活用は、生徒の興味と感動をよび、郷土への理解と誇りを著るしく高め、当初のねらいが達成されたことがアンケートや感想文からうかがわれた。

助言者より「社会的有用性があり課題意識のもてる象徴的教材での授業の展開が今必要とされている」との指摘がなされた。

数　学　部　会

数学部会は代々木ゼミナール札幌校を会場に、講演と研究発表が行なわれた。

午前の部では大阪大学教授の永尾 汎 氏の講演「学習意欲を高めるための数学の指導について」があり、離散数学における
"counting argument"という考え方、あるものを2通りに数える考え方を示された。その手法により

例題1　${}_nC_r$
例題2　グラフ理論
例題3　結婚定理と Dilworth の定理
例題4　置換群

以上4つの例題について、使用すべき記号の定義より始まる懇切ていねいな考え方と証明とで展開され、この講演に部会参加者も講義を受ける学生になったような気持で熱心にメモをとった。

午後の部は研究発表で、「学習意欲を高めるための数学の指導について」の次の発表がなされた。

①.「『数学Ⅰ』の指導と校内各種テスト」
三笠　林　勝敏

②.「個人差に応じた学習指導をめざして」
網走向陽　稲葉　茂敏

③.「学習意欲を喚起させるための１つの授業形態」
釧路江南　太田　博之

それぞれの研究発表は、よく準備された資料を添えて短期間に効果的に発表がなされ、終了後は助言者の（教育庁）西田　豊、（留萌教育局）平井文雄の両氏より指導、助言があった。

④.「入試と数学について」
札幌東　皆川　一雄

⑤.〔講演〕
「学習意欲を高めるための数学の指導について」
日本獣医畜産大学助教授　田島　稔氏

これは従来にない新しい試みで、研究発表と講演をセットにし、進学校のカリキュラム、講習、校外模試その他を通して進学の対策を取り上げたものである。

講師は高校数学と大学入試問題との中間に存在する諸問題を具体的な例で提示され、部会の多数の参加者に好評であった。

講演は最後に「日常論理の様相について」数学教育学論究 Vol. 31 別刷の解説で終了した。

次いで部会総会では会計決算書が承認され、昭和62年度の研究大会の主題「学習意欲を高めるための数学の指導、実践について」が示され、部会事務局が札幌東高校から厚別高校へ移されることが決定承認された。

理　科　部　会

〈理科Ⅰ分科会〉

〈主題〉これからの理科教育はどうあるべきか。

〔講演要旨〕

「これからの理科Ⅰ発展の展望」
北海道工業大学教授　奈良　英夫氏

理科の減単、小学校生活科の新設から来る改訂から、教科書だけは自由化するが、我々としては専門教科を中心にしながら理Ⅰの教材研究をしていくことが理Ⅰを存続させる堅実な方法。将来は中高一貫の六年生高等学校が、色々な歪みも網羅できる一貫教育の基に専門家養成の科目をもった学校になる。理科には早い時期に HPP、理科教育の人間化、素材の見直し、科学史、HOSC、NS（None scientist）を取り入れねばならないと思う。又必修になった家庭科の食品分析、電気などの内容を意識せずに、今後理科Ⅰの素材展開はできないだろう。

〔研究発表〕

①「理科Ⅰ『自然と人間』の教材化の試みとしての河川の水質調査（環境学習）」
札篠路　片岡　辰三

函館（前任地）の亀田川を素材にし、昭和57年函東高在任以来クラブ生徒も動員し、４分野総合的に調査。DO、COD、水棲生物により河川の長期の汚染程度を知る。更に選択化学、生物、理Ⅱへの教材化へと考えてみた。

②「理科Ⅰでの人間の生活環境教育と原子力発電所事故の教材」
苫小牧工　荒井　義昭

中高の教科書より、原子力関連文の抽出。チェルノブイリの事故とも関連し、「安全が全てに優先」ということを教えていかねばならない。

③「本校における理科Ⅰの授業実践」
札東陵　佐々木教夫

先生６名、物化、生地で２期に分け、授業。S—P表を活用し、先生生徒の自己診断に活用。

④「理科Ⅰの新しい教材——『型の物理』（ボロノイ分割）を中心にして」
札藻岩　山田　大隆
道教委　河村　勁

生徒の自主性、創造性を換起し、興味関心を引きつける理Ⅰの教材開発として、生物、無生物の多角形に共通性があることを発見させ、それより生徒に独自に多角形を分画させ、独創性を開発。平素のテストでは出ない面の生徒の理解や新たな理Ⅰの教材再開発により生徒の自然をより良くみる目を養おうとする。

⑤「『霧多布湿原の水と土の調査』の実施報告」
霧多布　松井　伸一

霧多布湿原を教材に理Ⅱで２年間、水質、土壌の調査（PH、Cl^-、DO、COD、微生物）。生徒の自然科学的思考を少しでも養わせたいのが目的。今後も何らかの型で活用させたい。

⑥「ヒトの性を教材として取り上げて——理Ⅰ生物分野を深める為に」
湧別塙　良一

最近薄らいでいる生徒の自然に触れての感動、真実真理への謙虚さ探究心を、色々な意味で重要な「ヒトの性」を教材にし、深く正しく学ばすことにより教育効果を高めようとする。出生する迄の危機を５期に分け学び、各人の母親の苦労談も文にまとめさせ全員で学習する。

※１　理Ⅰに関するアンケート

増単は定時制、職業課程に多く、全領域を教えるが$\frac{1}{3}$校、４分野が$\frac{1}{2}$校。今年度辺りからカリキュラムの変る学校が増えそう。

※2　理Ⅰをめぐる全国情報

意外に理Ⅰの読み替えが少い。4領域をやっている。但し今後の方向は、東京方式とか、お好みのウエイトをかけた教科書の採用など、各学校で多種多様になる傾向もある。しかし総合的なものはあくまでも育てていきたい。

〈生物分科会〉

〔研究発表〕

①「生物におけるマイコンアニメーション教材の開発と効果的活用について」

鵡川　杉山　剛英

生徒の理解度が低い、ミクロな現象、相互関係が複雑な現象などについて、マイコン教材を開発し、実践している。それは次の4つ。

「神経興奮伝導のしくみ」「ホルモンと自律神経の相互作用」「半透膜の性質」「DNAの情報発現」

この教材を用いると生徒自ら考える姿勢が見られ、効果は充分にあった。授業での展開を充分考慮して進めている。

②「失われたコスモロジーを求めて」

登別南　丸山　博

学校教育において大切なことは、「自然や社会への問いを通して自身の生き方を考えさせること」「勉強の中に内在する価値に気付かせること」ではないか。それを理科教育において次のように実践している。

(1)　基本的原理の発見（OHP）
(2)　自然への興味関心（VTR・スライド）
(3)　地域の環境の意識（野外での課題研究）
(4)　自然や生命の考察（文学作品）
⑤　自分自身の認識・他者の理解（討論）

間接体験(1)(2)と直接体験(3)を経て、精神の変革(4)(5)に至ることが、今日失われたコスモロジーの回復に他ならない。

〈助言〉　理科センター　白井　馨

〔研究発表①について〕　視聴覚機器の使用上の注意（目的・導入の場・特性の設定など）を考慮に入れた実践である。

〔研究発表②について〕　ねらいは素晴しい。内容構成の検討や評価などに対しての配慮が必要となる。

▶生物教材の相互交流

〈1〉「生物のしくみ」を理解させる1つの試み（新川－松田　健治）〈2〉生物の学習意欲の高まりを目指して　（美唄東－斉藤　章）〈3〉細胞分裂について　（札西－柿本　顕敬）〈4〉ミクロメーターの使い方　（石狩南－秋山　高厳）

▶その他の発表

〈1〉北理研Bチーム　アンケート集計結果　（札白石－横山　武彦）〈2〉生物の新しい科目について（八雲－塩川　信）

〈助言〉

理科センター　白井　馨

どれも素晴しい自作教材である。それらの開発とともに、実験を数多くこなして欲しい。また、生物教材を確保することも重要である。理科センターを大いに活用してもらいたい。

〈地学分科会〉

〔講演要旨〕

「プレート・テクトニックスからみた北海道の生成史」－オホーツク海と日本海の形成を含めて－

北海道大学理学部理学博士　前田仁一郎氏

(1)　日高造山運動論の破綻

日高造山運動論が決定的に駄目な証拠はいくつもあるが、なかでも決定的なのは、日高造山運動の深部で起きた火成活動の産物である火成岩が、紋別の方から様似のあたりまで延長しているのに対して、山脈化しているのは北海道の南半分だけであるという事実である。

(2)　プレート・テクトニックスによる地質の説明（解釈）の手法

1950年代から海洋の情報が得られるようになり、世界がいくつかのプレートでおおわれていることがわかった。このプレートは運動しており、それと陸上地質を照合することにより、我々が野外で得た情報を精密に解釈できるようになった。

(3)　日高と神居古潭は対か？

都城が唱えた「対の変成帯論」からすると北海道は逆配列になってしまう。ところが神居古潭帯の形成は140Maから70Ma（中生代）であるのに対し、日高変成帯は40Ma～17Ma（新生代）と年代が一致しないことがわかって「対」と考える根拠が無くなってしまった。

(4)　神居古潭帯は道南の花こう岩類・礼文島－樺戸山地の弧型火山岩類と対を作り、白亜紀の西向き沈み込み帯を構成していた。

(5)　白亜紀後期のオホーツク古陸周辺の沈み込み帯

根室帯から常呂帯にかけて、火成弧、前弧海盆、海溝陸側斜面付加帯が順次並んでいることから、北海道の東側にも白亜紀後期沈み込帯があったと考えられる。

(6)　日高変成帯はどうやってできたのか？

太平洋、ユーラシア、北米各プレートの相対運動から考えて、日高帯はユーラシアプレートに太平洋プレートが沈み込むことによって生じたと考えられる。

(7)　千島海盆はどうやってできたのか？

現在日高の東側に沈み込み帯がないが、これは17Ma位前に千島海盆が開いて東北海道が南下したということで説明がつく。

(8)　別の有力なモデル（木村モデル）

ユーラシアプレートと北米プレートが東西方向でぶつかって、大陸が両方とも北に向かい、千島海盆、日本海が開いた。日高はオホーツク古陸南

縁の〝古千島弧〟の南北断面である。

(9) 日高山脈はどうやってできたのか？

後期中新世以降、太平洋プレートが千島海溝の斜めに沈み込むことによって千島外弧が西方に引きずられ、中央北海道に衝突、西に衝き上げ日高山脈をつくった。したがって日高山脈の形成と深成岩、変成岩の形成は直接関係がないということになる。

〈化 学 分 科 会〉

〔講演要旨〕

「化学教育の新しい次元」

北海道大学理学部教授　**吉田　仁志氏**

化学は沈んだといわれるが、新しい素材が要求される現在やはり化学教育の重要性が叫ばれる。そして、次のことが求められている。

①発展した技術の駆動力としての化学
②増大する情報への早急な対策
③多様化する社会・生徒への対応
④総合的応用力、思考力、判断力の育成
⑤未知への挑戦力の育成

これらの実現のため具体的に次の方法があろう。

○化学の魅力の積極的 PR
○映像メディアの使用
○実物による教育

それにも増して大切なことは「やる気のある先生がいるか？」ということである。

〔研究発表〕

①「レモンの教材化」

札真栄　**三輪　礼二郎**

文系の化学選択者に興味をもたせるため、レモンを教材とする授業を試みた。酸としてのレモン汁の性質、レモンを用いた電池、クエン酸の抽出と融点測定、ラムネつくり、あぶりだし、青写真等を授業した。これによって、生徒の意欲や学力が向上している。

②「生徒実験の取りくみ」

旭川東　**岩田　　憲**

実教出版（化学003）に載っている実験をすべて実施した。時間数がぎりぎり、実験室が古い、入試に向けて進度が遅い等の問題はあるが、今後とも継続してゆきたい。レポートを１グループ１枚とした反省点がある。

③「化学の演示実験について」

札　北　**角張　裕信**

大人数の生徒に演示実験をする場合、後部の生徒には見えにくいなどの難点がある。ヨウ素・デンプン反応を用いた反応速度、チオシアン酸鉄（III）水溶液やクロム酸イオンを用いた化学平衡の演示については、アクリル板で深さ 3 cm のセルを作製、OHP にのせ演示した。二酸化窒素と四酸化二窒素の平衡移動については試験管を OHP 上にのせ演示した。

④「化学量とその計算」

（録音参加）札平岸　**野田　四郎**
（補足）札平岸　**笠岡　正紀**

化学計算は単なる比例計算ではなく量の計算であることが生徒にとって難しい点である。

数字のみでなく単位も計算すること、アボガドロ定数の6.0×10^{23}/mol のような「毎モル」という量になれることが「こつ」であろう。

〈物 理 分 科 会〉

〔講演要旨〕

「原子力利用の現状について」

北海道大学工学部助教授　**熊田　俊明氏**

1．原子力発電の必要性

環境汚染の抑制──→大気汚染、放射性物質の排出、CO_2排出による気候変動

エネルギーセキュリティ──→エネルギー源の多様化、準国産エネルギーとしての役割、将来のエネルギー源確保

経済性

2．原子力発電の条件

安全性の確立──→異常、事故災害の防止

廃棄物の安全な管理と処分、核燃料の確保

技術水準と原子力利用の考え方、社会制度

3．核燃料サイクル、核廃棄物処理

〔質疑応答〕

▶質問

北沢（西陵）

① 欧米では原発発注が減少

●答　電力需要充足　原発建設反対運動。

② 冷却水の放出

●答　一次冷却水は循環させている。

③ 食物連鎖による放射性物質の濃縮

●答　地域が納得するレベルまで下げる。

④ 日本の原子炉もわずかな危険を持つ。

●答　日本の社会的安全基準は極めて高い。

▶質問

萬木（古平）　ギロチン破断の可能性

●答　耐震設計費用は他国の２倍、格納容器の丈夫さ、原子炉停止後の発熱。

▶質問

武田（八雲）

① 発電に要する化石燃料

●答　発電に要するエネルギーと出力の比は、原子力１：15　火力１：５

② 廃棄物の気体の蓄積、生物への影響

●答　計器にかからない程度のもの

③ 熱利用発電による地球の熱の蓄積

●答　今の放熱量は太陽熱の１万分の１。
気象的影響は太陽熱の１％程度から。

〔研究発表〕

A「物理計測にパソコンを使ってみて」

石狩南　関川準之助

2台の台車の反発を光センサーとパソコンで計測し、運動量の保存を確かめる。

▶質問　坂田（白石）タイムカウンターからのシステムと、ディスプレーの形。

B「等速円運動の実験指導について」

浜頓別　大久保政俊

レコードプレイヤー上の台車にばねで向心力を与え、$f=mrw^2$を定量的に示す。

▶質問　武田（八雲）科学史も話すと良い。

C「物理における補助教材の活用」

旭川凌雲　富樫　一憲

新設校のため実験ができず、演習問題に取り組んだのが始まり。学校教育におけるワープロのメリット、問題点と将来。

▶質問　北沢（西陵）同様のものを作っており、最後に答を入れている。

中川（野幌）打ち込む時間、練習量

原田（本別）生徒への効果、解答時間

〔講評〕高柳賢三（理科教育センター）

○物理計測へのパソコンの導入について

○等速円運動のデータは、理科センターでも活用したい。

○ワープロ、パソコンの利用促進を望む。

○教育課程 ——→内外教育12月12日号

保健体育部会

〔研究発表〕

①「生徒の意欲を高める教科指導の在り方」

——縄とび授業における指導上の工夫——

雄　武　加藤　和美

地域や生徒の実態等を考慮し、手軽に簡単にできる運動をとおして、生涯へのいきがいを見い出せるようにとの考え方から体操領域の一分野として縄とび運動を実施している。その実践過程が報告され、縄とびは単純な種目ではあるが、指導法の工夫で高い効果が得られるのではないかと、まとめられた。

②「高等学校における望ましい部活動（運動部）のあり方について」－部活動の現状と課題－

根　室　坂上　栄一

教育活動の中で、生徒と教師の双方に大きなウエイトを占めている部活動が、学習指導要領の中に明確に位置づけられないまま、各学校によってまちまちの取り扱いで、運営されている実情である。現状を正しく認識し、問題点を明確にしていく必要があると報告された。

〔講演要旨〕

「運動処方の生理学」

埼玉大学教授　加賀谷熙彦氏

運動処方がどのような過程をへて今日に至ったかを話したい。適正運動量を求める研究は、運動処方の研究の中で必然的に生じてきたものである。1970年ごろから盛んになり始め、主として青少年の持久力を増すための研究がなされた。その後、筋肉の中の研究へと移行し、最近は中高年の運動負加の研究（身体内部環境の調整）を重視している。

今回は全身持久力を高めるという点について話したい。(人間の筋収縮とエネルギーの供給について黒板を使って説明された。)

別紙資料P1161により運動強度と運動量について説明。運動量は運動強度と運動時間の積で表わされる。

別紙資料P1162によりトレーニング強度は、個人の最大筋力に対する出力の割合で、日常生活で使用される30%強度以下の筋力発揮では筋力の増加は無く、40%強度以上で効果が現れる。運動強度について心拍数で知ることができる。中高年では60%強度で心拍数150、青少年では70%強度で心拍数150程度といえる。運動に適応してくるのに約3分間かかる効果を期待するには最低5分～10分の運動時間が必要である。それを1週間に3回が最適であり、1週間に1回は休んだほうがよい。P1166図3持久走トレーニングに必要な強度を参照し、積極的に楽しんで持久力を身につけようとしていくことを援助する指導が必要であろう。つまり心拍数で120～130になる運動を数分間続けることが必要であり、100以下の運動では体力が落ちていくということである。効果を考えたトレーニングが大切である。

スライドにより、上記の内容の実例のデータを一つ一つ細く説明された。

最後に高校期に必要な運動量を確保し、生徒一人一人の体力のデーターを把握して、体力の向上を目指すことが大切であろう。

養　護　部　会

〔研究発表〕

①「保健室の教育相談」

－高校生の性意識と実態をふまえた指導について－

苫前商　加藤千恵美

保健室における相談内容から、本校生徒の「性に関する」実態把握とそれに基づく指導の必要性を感じ、2年間に渡りアンケート調査をした。その結果①男子の性指導はどうすべきか。②学校体制に位置づけた計画的指導はどうあるべきか。が浮きぼりになった。そして、高校生の「性に関する」指導は正しい知識は勿論、性をメンタリティーの立場から、生命の尊厳を尊び、性の自己確立を目指した指導をして行きたい。その為には全職員が共通理解のもと

で、学校全体としての計画的指導が必要である。と結ばれた。

②「保健活動と生徒指導」

熊　石　田中　典子

過疎化という大きな社会的背景を背負う本校で、2つの事例を通して考えられる事は、養護教諭単独での指導には限界がある。保健室での指導を学校体制に位置づけて全職員の連携・協力体制で広く深い視野に立ち、全人格的な教育の確立を目指す指導が必要であると考える。と問題提起がなされた。

③「保健委員による保健指導ビデオ製作」
—環境を考える〝わるい子・よい子〟—

釧路星園　小林久美子

本校は年2回、全校一斉の保健指導を実施している。今回発表の〝環境を考える〟は60・61年度の研究テーマである。公衆衛生に対する意識の低さが目立つ昨今、生徒保健委員会が自ら校内の汚れを問題として取りあげ、解決して行かなければならないとの使命感にかられテーマとして設定した。そして、生徒自身によってビデオを製作し、より具体的に全校生に訴えたのである。その結果、生徒達は高い関心を示し、放映から1年経った今、学校環境は一段と輝きを増した。との実践報告がなされた。

〔講演要旨〕
「生徒指導への養護教諭のかかわり」

千葉教育相談クリニック所長　向後　正氏

学校保健における相談活動においては、健康的な生活を営む上で問題をもつ生徒に対し面接・話し合いという手段を通して、自らの健康問題を自分の力によって改善し、健康生活を保持増進させていこうとする意欲を持たせる事が大切である。特に生徒一人一人の個別的な健康問題をその個性・特性に応じて自己改善・自己解決できるようあたたかい手を差し延べて行くことである。

生徒の健康問題の質的変化から、これからの保健室機能のあり方を考えると、養護教諭自身が保健室王国から脱脚し生徒に対すると同様、先生方に対しても積極的に開かれた保健室を目指す事である。何故ならば、今、養護教諭に望まれている事は個人プレーではなく相互の有機的連携による総合力が最も必要とされている時代となってきているからである。

芸　術　部　会

〔講演要旨〕「私と創作」

彫刻家　砂沢ビッキ氏

芸術部会では、砂沢ビッキ氏に〝私と創作〟ということで講演していただきました。ゆっくりと、かみしめるように話は進んでいきます。

芸術には何が必要か？砂沢氏の体験では……。大切なのは、友人との交流ということです。自分の意見と友人の意見を交換し、作家として何をすべきかを語り合う。そこから新しいものが生まれてくるというのです。伝統を知ることは重要なことに違いありません。しかし、それだけで終わってしまってはいけない。意見交換などによって、そこから新しいものを築き上げなければならないのです。それがまた新しい伝統となります。芸術には〝創造性〟が重要な役割を持っているのです。暗中模索の中で試考錯誤を繰り返し、その中から独創的なものを見つけていく必要があります。

型にはめられた作家・師の後を追うだけの師弟関係ではいけなく、もっと自由に、心のまま、他に束縛されない中で創作活動を続けていかなくてはなりません。

今までの考えを芸術教育にあてはめてみましょう。

最も大切なことは対話です。教師と子どもが対話をし、議論を展開する。そこから、何を考えているのか・どういう方向へ進むべきかを見つけていきます。これをくり返していくと、子どもの創造性がふくらんできます。そこで〝制作〟へとつなげていくのです。以上のことを実施するためには、教科書通りに教材を扱うのではなく、もっともっと子どもたちに自由を与える必要があります。教師自身も、自由な気持ちを持たない限り、子どもが自由になるはずがありません。

最後に、高校生には、芸術的な目を持たせる必要があり、芸術性を重視させなくてはいけません。〝独創性〟を育てるようにしてください、ということで話をまとめられました。

〈音楽分科会〉

昭和62年1月9日（金）午前10時より12時までの間、札幌市民会館3・4号室で〝これからの芸術教育〟を主題に、美唄東高校の佐藤伸一教諭が「儀式的行事に於ける音楽」と題し、研究発表を行った。まず、南空知地区へのアンケート調査から、13校の儀式的行事における音楽の扱い方をまとめ、美唄東高校の場合の取り組み、特にブラスバンド編成の経緯の発表があった。この後、全体的に校歌を歌おうとしない傾向があることを共通の問題として意見の交換がなされ、音楽教師がどう対処すべきか、指導の方法を検討する内容となった。学校における儀式的行事は、全員が参加して心をひとつにする集会に教育的意義を図ろうとするものであるが、不断の積み重ねが卒業式に結集する様に、日頃から校歌を歌うよう指導する必要があるとの確認をみた。参加者は、約50名であった。

〈美術分科会〉

帯広柏葉高校中谷有逸先生が「生徒の創造性をひきだそうとする美術の指導の試み」と題して、製本された50頁におよぶ資料と約60点の生徒作品を示し

ながら、研究発表された。

先生の、合理的な思考「知」・その対極にある「情」に働きかけて、生徒の創造性をひきだそうとした指導は、積み重ねられた実践を通して美術教育の核心をつく、すばらしい内容のものであっただけに、参加者は深い感銘を受けた。

その後、質疑・応答、意見交換が行われ、創造性について、教師の姿勢、個別指導等、広範囲にわたって話しあいがもたれたが、最後のまとめとして、助言者より「これからの美術教育」は、(1)新しいロマン主義を求める。(2)文化の時代に入った美術教育を考える。(3)美術教育の特性を生かす。(4)新しい教材を求めるの点から考えていかなければならないと助言をいただき終了した。

〈書 道 分 科 会〉

〔研究発表〕

「生徒に成就感を夢みての書道授業の展開について…その一考察」

上富良野　**若林　芳美**

芸術教科を学校選択必修にすることについての長所・短所、評価方法、また各種書道展に出品することにより生徒に成就感を持たせる授業展開について発表された。その後参加49名の先生方による質疑がなされ、芸術教科の評価と他教科とのバランス、基準、多面的評価について、教育課程編成について、目的意識のない生徒の興味付けについて、創作指導についてなどが話された。助言の先生からは、生徒の主体的評価をいかに評価に組み入れるか。表現する喜びを生徒に知らせることの重要さ。生徒の興味付けのために教師がどんな工夫をするか、生徒にどんな工夫をさせるか、発表の場を与えることにより生徒に成就感を持たせることの重要性、形成的評価について、そして卒業後も書道に興味が持てるような生徒を生み出して欲しい、ということでまとめていただいた。

英 語 部 会

〈主題〉「生徒が意欲的に取り組む英語の授業の工夫・改善を求めて」

〔講演内容〕

「英語の意味と日本語の意味」

早稲田大学教授　**小島　義郎氏**

外国語を教える時に大切なものは意味であり、また外国語と母国語を比較する時に大事なものは意味である。それでは言葉の意味とは何か。言葉の意味とは百科的、科学的知識ではなく、人間の心の中に形成されている物と物とを区別する特徴（distinctive feature）である。またこのように意味というものを心理的（psychological）なものと考える立場に立つメンタリズム（mentalism）が意味論では主流となっている。このような考えに立って日本語の意味と英語の意味を、Ⅰ．単語の意味、Ⅱ．文の意味の両面から述べていく。

Ⅰ．単語の意味

1．意味の特徴の違い（difference of semantic feature）

例えば日本語の「借りる」「貸す」に対応する英語は borrow, lend, rent などであるが個々の状況に応じて使いわけなければならない。

2．語いの違い（difference in vocabulary）

日本語にあって英語にないようなもの（例　親孝行、義理など）またはその逆が多い。

3．借用語（loan words）

カタカナ語は本来の意味とは違う使い方をしている事がある。（コピー、デート）

4．1か国語辞典と2か国語辞典の語義

例えば日本語の「跳ぶ」に対応する英語も jump や leap があり、英々辞典（1か国語辞典）によるとさらに理解が深められる。

Ⅱ．文の意味

言語学・英語学の流れは単語の意味論から文の意味論へ向いつつあり、コミュニケーションということが注目されている。コミュニケーションは speaker と hearer さらには話しことばに限らず、writer と reader、そして situation（環境）を含めて考えねばならない。

1．J.L.Austin「How to Do Things with Words」

彼によると平叙文（descriptive sentence）は陳述文（constative sentence）と遂行文（performative sentence）に分けられるが situation によってはすべて遂行文とみなすことが出来る。そして発話行為（speech act）を発語行為（locutional act）と発語内行為（illocutional act）そして発語媒介行為（perlocutional act）に分けた。この主旨にそって平叙文を考えてみるとどの平叙文もすべて遂行文と見なすことが出来る。

2．文と発話の意味

コミュニケーションは speaker の意味するものと hearer の理解が situation を通して行なうものである。

3．cohesion and coherence

cohesion は結束性（文法的つながり）を意味し、coherence は結合性（脈絡のつながり）を表わす。コミュニケーションにおいて coherence を求めることが大切である。

4．間接発話行為（indirect speech acts）

J.R.サークルによるコミュニケーションにおけるイディオマテックな表現の例。

まとめ

日本語の意味と英語の意味という観点からすると、日本語でコミュニケーションできるから英語でも同じように出来るとは限らない。英語を教える側においては特に、単語の意味と文の意味、そして situation をふまえて日本語と英語の意味を考えなければならない。このような態度が教えられる側の言語運用能力（communicative competence）の発

達につながる。

〔研究発表〕

①「生徒に意欲・興味を持たせる英語ⅡAの授業を通して」

美　瑛　石田　晃

学習意欲や目的意識が低い生徒に対し、テープ・英語の歌・パズル等、様々な副教材を利用し、授業に対する興味・関心を持たせ、聴く力・話す力を養成している取り組み。

②「農業高校に於ける英語Ⅰへのアプローチ」

帯広農　竹村　雅史

情報化社会の言語教育は音声重視の授業をはかるべきである。それに対応するため、農業高校の現状をふまえ、「話の中心を捉え聞き取る作業」を授業展開の重点にしている。視聴覚教材を多用し、作業学習を中心に生徒個々を意欲的に授業に参加させている実践報告。

③「定時制における英語教育の充実を目指して」―札幌市立高等学校定時制英語研究会による新入生テストの実施結果を中心として―

札啓北商　笹原　勇雄

学力の多様な生徒が入学して来る定時制の現状を的確に把握し、指導している実践報告。各定時制に共通な課題である低学力や意欲不足等、英語指導上困難な問題点を新入生テストを実施することで解決の糸口を見つけ、相互に連携を取り、共通の立場で指導法を確立すべく研鑽を積んでいる。

家　庭　部　会

〈主題〉「これからの家庭科教育を考える」
―わたしの考える家庭科教育―

〔講演要旨〕

「これからの家庭科教育をどうすすめるか」

横浜国立大学教授　奥田　真丈氏

- 教育改革と教育課程の基準改訂について
- 女子差別撤廃条約に対応する家庭科のあり方について
- 小・中・高のあり方と家庭科教育
- 高等学校はどうあるべきか
- 教育とは何か、また人間像をどう描くか
- 人間と教育のかかわりについて
- 学校教育に求められている使命
- 生涯学習と生涯教育
- 家庭科の位置づけの視点
- 実践を中心とする家庭科
- 評価と教育のねらい

〈総会〉

- 昭和60年度事業ならびに収支決算報告
- 昭和61年度事業計画ならびに予算について

〈協議〉（承認を受ける）

- 会計監査報告
- その他（連絡）

(1)主題について　(2)研究紀要の執筆
(3)地区支部役員の報告　(4)部会報の発刊

〔研究発表〕

「わたしの考える家庭科教育」

札幌北　大森　彩子
深川東　三塚のぶ子

学校教育の目標である人間をつくる事を家庭科教育でどう果していくか。生活体験、とくに心の体験の乏しくなっている生徒の実態から、また激変する社会の中にあって家庭機能の低下が進む中で実態をおさえて両先生から実践発表が行われた。

また、自己啓発しながら新しい家庭科教育をめざして欲しい等の指導助言を受けた。

農　業　部　会

〔講演要旨〕

「産業とニューメディア」

ＮＴＴ道総支社　ＩＮＳ営業部長
飯倉　正夫氏

飯倉部長の講演レジメを以下に記し、報告にかえる。

1. 人間と情報通信（○情報とは、通信とは　○現状　○情報の伝達）
2. ニューメディアについて（○意義　○ニューメディアと私達　○種類　○ニューメディアに関する市民意識の調査結果について）
3. 農業におけるニューメディアの利用例（○千葉市「ふるさと農園」　○帯広市酪農経営システム　○人工栽培　○水耕栽培）
4. 農業におけるニューメディア政策及び支援措置

〔研究発表〕

①「植物バイオテクノロジーの導入のねらいと実験実習の内容について」

士　幌　入宇田尚樹

②「植物組織培養技術教育の導入」

真　狩　岡崎　正昭

入宇田氏は、バイオ学習導入のねらいを「自然科学への関心高揚と農業再認識」とし、多くの課題をもつ中で一つの実験例としてプロジェクト学習での取り組みの内容をスライドを使って紹介、問題提起された。

岡崎氏は、組織培養学習導入のねらいを「農業への興味・関心を高める動機付け」とし、自校の組織培養指導計画や条件整備のポイントを具体的に示すと共に、今後の課題にも言及されるなど、極めて示唆に富んだ提起がなされ、両発表とも中味の濃い発表であった。

〔協議〕

各校の実践状況について、教科科目への位置づけ（農業教科で、農業教科と普通教科で、新科目設定で）、指導内容（組織培養、受精卵移植、その他）、施設設備（無菌箱、無菌室、実体顕微鏡等の自作・購入による導入）、課題（カリキュラムの検討、地域との関連、校内研修）等の情報交換を活発に行う。

〔指導助言〕

1. バイテクの実験実習を行うならば、質の高いものを実施しなければならない。地域性、教材の焦点化、導入する基本にある考え方を十分研究しつくし、周到な準備をして実施しなければならない。
2. 真狩商校の資料は、各校にガイドとして役立つので、今後活用してほしい。
3. 生徒のためにも各校共、それぞれ研究検討し、バイテクを実施してほしい。
4. 早く気づく力、選ぶ力、工夫する力、実践する力の四つの力を持ってほしい。

工　業　部　会

〔講演要旨〕

「サービス化、脱工業化社会における工業教育」

北海道大学経済学部教授　小林　好宏氏

最近、若年層を中心にソフト指向が強まり、ハードの人気がなくなった。これはまた重厚長時代から軽薄短小時代となった産業界の動向と一致している。ソフト化とは①情報化、②知識集約化、③サービス化を意味している。物材の付加価値でソフトの占める割合が6～7割となり、人々も本体より付帯するサービスやデザイン、ネーミングなどに関心を持つようになり、企業でも本体より他の部分にウエートを置き、産業の空洞化が生じてきた。

今、大切な事はソフト化やサービス化、情報化の流れを認識しながらも、それの過大評価やそれに振り回されてはいけない事である。日本経済の発達は時代の変化に対応できる能力を持った労働者がいて、企業が新しい技術の導入や部門構成ができたためと言われている。これは日本の教育の成果である。

多様な職業に対応できる共通項は、読み・書き・そろばんであり、これらが一般能力を高める大きな要素である。

情報化が進展するなかで、学校教育も時代に即応した先端的分野を取り入れ、新しいやり方を工夫しなければならないのは事実だが、あまりそれに振り回されず、社会に出てすぐ役立たない、時代に遅れている百年来やってきている部分があっても良いのではないか。

〈主題〉時代に即応する工業教育のあり方

〔研究発表〕

①「ＮＣ・ＣＡＤ教育の実践例」

札幌工　志摩　　理

産業構造審議会の発表によれば、21世紀になると、技術者の不足は深刻になるということである。工業高校においても科を問わず情報処理教育が必修となってきている。今回は、今まで実践して来た情報処理教育の中から、ＮＣ教育とＣＡＤ教育について自作ソフトの実習での利用を述べてみた。

②「情報処理教育とパソコン利用について」

小樽工　室崎　卯人

本校工業化学科においては、一台のポケコンに始まり、現在は PC-9801F_2による情報技術教育を行っている。生徒の積極的なパソコン授業への参加など、情報技術教育に成果をあげている。これからは、BASIC のみならず、MS-DOS 等の汎用 OS の使用による市販ソフトの利用、計測・制御等に取り組み、情報技術教育の推進をはかっていかなければならない。

③「本道機械系学科における情報技術教育の現状と本校の課題」

釧路工　佐藤　　俊

工業高校における情報技術教育の必要性が今日的課題となり、各学校で様々な取り組みがなされ、多くの改善すべき課題をかかえているであろうことを思い、今回機械系学科27校について、アンケートを取りまとめ、集計結果と本校での取り組みを含め報告した。

商　業　部　会

〔講演要旨〕

「カード社会の到来と発展」

株式会社　エイチ・シー・ビー

社　長　薮田　照巳氏

現代は車社会といわれる。車に関する法規・自動車道・高速道路又信号体系・整理・車検等完成されているが、カード社会の実態はまだ車社会のようにはなっていないのが現状である。42年頃は、モータリーゼーションは日本に来るのだろうかと思っていたが、車社会は確実に到来した。それに比較してカード社会はまだまだ不充分で割賦販売等規制はあるものの、運営面においてはそれなりに貢献している。個人信用面が整備されないと被害が大きくなってゆく。日本やヨーロッパはカードの利用に関する整備が途上にある。

昭和60年代には、ＰＯＳシステムやターミナル等整備されつつあって、社会的基盤がまだ弱いが確実にカード社会は形成されつつある。現在出回るカードの中に、テレホンカード・国鉄カード・キャッシュカード・各種のクレジットカード・デパート専用

○店舗数3,215店舗

3：フランチャイズ

ア）契約と信頼でお互いの役割をキッチリと果たす→共存共栄

イ）仕組み—既存小売店の活性化，地場企業の活性化

4．VAN

ア）VANの利用

○経営効果—情報という経営資源の創造

a）距離と時間を克服して経営トータル管理が向上

b）経営・管理サイクルの効率化

c）企業内外の情報収集と創造化

5．セブンイレブンの情報戦略

ア）情報戦略

○4つのコンビニエンス（顧客，加盟店，問屋，本部の利点）

イ）店舗情報システム

○POS—レジ

○EOB—370gの軽量（28KBT）

ウ）総合仕入システム

○欠品状況の把握—欠品率0.5%

○単品ベースでのデータ蓄積—販売，仕入

○会計処理—個店P/L・B/S，問屋—正しい支払い。

エ）分散ネットワーク

○520回線の大型規模

○端末機—店舗21,000台，本部211台
問屋1,363台，計22,574台

○データ件数　POSデータ824万件
発注データ241万件

オ）店舗情報システム

○目的は共通データベース使用

カ）機会ロス、廃棄ロス

○ポスの多面的利用

○単品管理の重要性

○差別化の必要性

キ）在庫と売上グラフ

○システム導入の効果

①昭和53年　「ターミナルセブン」によるCPO開始

②昭和54年　オンライン発注開始

③昭和57年　POSシステムを商品情報として採用

④昭和60年　グラフイックパソコン，双方向レジスター導入

まとめ

1．利益をあげるステップ

2．単品管理

3．物流の整

4．情報の多面加工と利用

5．時代への変化対応

〈第1分科会〉—教育課程—

〔研究発表〕

①「本校教育課程の編成と実施について」

仁木商　**水尻　賢治**

本校は昨年度道校長協会から研究指定校に指定され教育課程の編成に取り組んでいるが，その途中経過を中間報告として発表します。

1．教育課程編成にあたっての基本方針

(1)社会の変化と産業構造の変革に適応した教育の推進

(2)生徒や地域の実態に即した教育内容の精選

(3)実験実習科目の充実

(4)大単位（原則として3単位以上），少科目制

(5)検定資格取得の重視（簿記・情報処理・英語・ワープロ・珠算・販売士）

(6)OA機器の積極的活用

2．教育課程の主なる改訂点

(1)総合実践を1年次より3年間にわたって実施すること。

(2)情報処理・ワープロなどのOA機器の利用科目の単位数を増加した。

(3)商業科目を3年生で実施することにした。

(4)簿記会計の単位数を増加した。

(5)マーケッティングの科目を新設した。

(6)ワープロ・パソコンの機器を1人1台使用できるようにしたこと。

3．商業の体験的行事として実習販売会の実施

以上の発表内容は中間報告の段階ですので，今後さらに検討をすすめるためご指導とご助言をいただければ幸甚に存じます。

〈協議〉

1．「芦別地区新設高校の教育課程について」

(芦別商)

2．「多様化している小規模校の教育課程について」

(瀬棚商)

〈第2分科会〉—OA機器関連科目—

〔研究発表〕

①「本校におけるOA機器関連科目の指導法について」

札啓北　**甲斐　辰三**

柴田　秀世
今　久美子

○情報処理Ⅰ
TSS方式の実習とスタンドアロン方式の両方でコボルのプログラミングの学習及び1～3級程度の実習問題とその結果について，
○総合実践
(1)ワープロの学習と財務会計のソフトを利用してのパソコン学習（ワープロのカナ入力とアルファベット入力の違い）
(2)商品売買には競争原理をとり入れている。(パソコン同士の通信)
(3)ビデオカメラの映像を各ワークステーションのディスプレイに表示することによる効率よいパソコンの利用（操作方法の実習）以上実習を通して研究を深めた。

〈協議〉
1．本校における情報処理教育の課題
(1)ビジネスソフトの使い方について
(2)プログラム言語について
(3)実習におけるOA機器の使い方とプログラム作成について。
(4)総合実践におけるOA機器の使い方とプログラム作成について。(妹背牛商)
2．日本語ワードプロセッサーの専門性としての位置づけについて（由仁商）

〈第3分科会〉—進路指導—
〔研究発表〕
①「進路指導について本校の取り組み」
江差南　**柴田　正直**
○研発資料にもとづき説明
○司　　会…各校の現状について報告してほしい
(千　歳　高)…早い時期から意識をもたせる努力をしている。
(札　東　商)…3年生の内定者から業種別に2年生に対しての進路学習。
(福　島　商)…内定状況は昨年より良好である。
(瀬　棚　商)…進路説明会・三者懇談，四者懇談等により進路意識の昂揚に努めている，内定状況は昨年よりも良好である。
(小　樽　商)…校内に調査委員会（企業の求める人間像）による情報の収集。
(由　仁　高)…作文指導の強化。
(妹背牛商)…炭鉱の閉山の影響など厳しい状況下である。
(深　東　商)…PTA活動を通して早期就職意識を高める。
(奈井江商)…ゆとりの時間を活用し手作りの就職問題集を。
(旭川北都商)…2年次からの父母懇談会，卒業生と3年生のパネルデイスカッション進路指導部と全員個別面談など。
(中　標　津)…ゆとりの時間を活用しての計画的段階的進路指導。
(稚内商工)…選考開始（早まった）に対応できず。

〈助言〉　（旭川商教頭　平岩）
○　生涯学習の基礎としての進路指導
○人生経験、生きざま等身近なところから話すべきだ
○接遇についてはH・Rを活用すべきも一例か
○基礎学力の向上

〈協議〉
1．就職選考開始日の早期化に伴う進路指導の対応について（士別商）
2．3年生の就職指導をどのようにしているか。各校の実態について（旭川商）

水　産　部　会

〔講演要旨〕
「水産教育をめぐる諸問題」
文部省初等中等教育局職業教育課
教科調査官　**勝木　茂氏**
(1)　学科改変の動向と今後について
昭和62年度，全国各地の水産高校で行われた学科改変と，昭和63年度，学科改編を予定している学校について説明が行われた。それによると，学科改編を実施した学校では入学志願者数は徐々に上昇しつつあり，一応の成果があがっている。また今後学科改編にあたっては，生徒や社会の変化，多様化に対応できるように，教育の目的，地域性，学問の体系，職業資格等を充分考慮し，指導内容を検討したうえで学科改編をすべきであることなどが強調された。
(2)　学習指導要領改訂について
地歴科，公民科の分離，家庭科男子必修に伴う増単，課題研究，情報処理の導入や生徒の多様化に伴う教科・科目の弾力化など学習指導要領の改訂について詳しく説明された。

〔報告〕
1．「産業教育指導者養成講座参加報告」
函館水産　**平沖　道治**

食品流通とマーケッテイング，水産におけるバイオマス資源の利用，低温浸透圧脱水技術と食品加工など，多方面にわたった研修内容が報告された。

2．「産業教育実技講習会参加報告」

戸井　**奥屋　達雄**

BASIC言語を使ったコンピュータプログラミングの基礎と応用の取り組み，水産高校や水産業界におけるコンピュータの活用状況についての研修内容が報告された。

3．「産業教育教員長期研修参加報告」

小樽水産　**高山　裕斌**

藻類の基本的培養方法，プロトプラストの分離など，水産におけるバイオテクノロジーについて，研修された内容を詳細に報告された。

〔研究発表〕

①　「学校以外との協力、連携の試み」

函館水産　**金田一　良一**

函館漁業研修所との協力，連携を実施した経緯や内容，今後の実施上のメリット，問題点などについて報告された。

②　「総合実習の効果的な指導法について」
（漁労長制度・工場長制度の展開について）

恵山　**村上　信一**

学習意欲や興味，関心を向上させ，実習を通じて技術の習得を目的として，漁業実習に漁労長制度を，水産製造実習に工場長制度を導入して実習を展開した。その結果，生徒に協調性，主体制，実践力が育成された。またPTAとの連携でさらに確かなものとなった。

〈協議及び講評〉

研究発表について，協議がなされた。また北海道教育庁指導主事：松見和幸氏より全体講評が行なわれ，新しい学校教育の中で，特に情報処理について，学校内での組織的研究の強化の必要性が助言指導された。

〈編集部より〉

●第25回北海道高等学校教育研究大会第一日目の全体集会は、全道から参加した会員4,110名を迎え、会場の北海道厚生年金会館で盛大に開催されました。

●今年度の登録会員数は、5,729名ですから71.7%の会員が全道各地から研究会出席のために参加されたわけです。

●昨年度の第24回大会の参加率は、68.7%でしたから、今年度は3.0%の増加を見たわけで、今更ながら会員の皆様方研究に対する熱意の程が伺われ、本部事務局一同喜びにたえません。

●さて、開会式では、来賓としてお見えになられた北海道教育委員会教育長澤宣彦先生、札幌市教育委員会教育長松村郁夫先生のお二人から、現在の教育事情を踏まえての感銘深いお祝辞を賜わりました。

●特に、松村教育長の「例年に見られない素晴らしい晴天に恵まれた、本大会の開催は珍しく、さながら本大会の成功と、更に本道教育界の本年の向上と発展とを暗示するかのようだ。」とのお言葉は、確かに長年雪か吹雪の幕開きを経験してきた本部役員にとっては大変身に染みるものがありました。

●全体講演午前の部は、作家としていろいろな面で知名度の高い野坂昭如氏の「近ごろ思うこと」という講演でしたが、早口のしゃべり方で作者の「思っていることが」が、次から次へと切れ目なく続き、まさに立板に水の話振りは満員の聴衆を魅了させたようです。

●さて、全体講演午後の部では、道内講師ということで、札幌医科大学副学長・附属病院長小松作蔵先生の「心臓移植をめぐって」という講演でしたが、「スライドを十分に駆使しての講演は、今日的な問題という事もありまして午前中とはひとあじ違った深い感動を会員に与えたようです。

●終わりに、各記録ご担当の先生方大変ご苦労さまでした。本部事務局係一同心からお礼申し上げます。

〈編集部ー沢田〉